

# 第22回日本静脈麻酔学会学術集会 ～若手麻酔科医のおすゝめ～ vol.1

## 『第22回日本静脈麻酔学会学術集会のみどころ』

### 麻酔科レジデント某

「日本静脈麻酔学会という非常にマニアックな学会があるんだけど参加してみない？」昨年夏、私にかけられたこの甘い一言が大きな過ちの始まりでした。麻酔を始めて日も浅く、そんな学会の実態も知らぬまま、高松市を訪れました。「飛んで火に入る夏の虫」とは私のことです。会期はたった1日、会場も1つと小規模な学会ですが、参加している先生方の熱意が部屋中に溢れて、私は熱中症で倒れそうになりました。学会公用語が日本語とはとても思えないほど、薬物動態学や薬力学の奥深くに踏み込んだ熱い議論が交わされ、迷子になった私は、無事に帰れるのか凄く不安になったのを覚えています。一般演題のセッションも「そこまで言う？」と思うほど活発なディスカッションが続き、一日が48時間だったらしいのにと思っただけです。そして演者や座長との距離も近い、一体感のある非常に温かい会でした。

22回目となる静脈麻酔学会、今年は10年ぶりの東京開催です。今回は新しい取り組みにも挑戦します。まずは、静脈麻酔 vs 吸入麻酔のディベートです。呼吸器外科や脳神経外科の麻酔、小児麻酔、困難気道症例の麻酔という、多岐にわたる領域のエキスパートが相手を完膚なきまで論破する、他の学会では絶対見ることのできない大論戦です。教科書には静脈麻酔がいいと書かれているけど、吸入麻酔じゃダメなの？ できるのなら、どんな点に気をつけたらいいの？ 両者の長所と短所を比較しながら、そういった疑問も解消できそうでとても楽しみです。普段は温厚そうな先生方ばかりですが、対吸入麻酔のディベートは初の試みなので、何が起こるかわかりません。互いの怒りを買って収拾がつかなくなり会場に暴風雨が吹き荒れるだろうと、気象予報士でもある私の上司は予想しています。レフェリー役を務めることになった先生方お二人は本当にお気の毒だと思います。

そして学会の締めは元麻酔科医、今は現役国際線機長でいらっしゃる篠崎恵二先生のご講演です。「導入」は「離陸」、「覚醒」は「着陸」と職場の某上司は、いつも麻酔をフライトに喩えています。単に経過が似ているだけでなく、麻酔と航空業界には「安全」という絶対譲れない重要な共通点があります。「空の安全」に対する取り組みは、麻酔にも応用可能かもしれません。この特別講演が、普段と異なる視点で麻酔について考える契機となるのではないかと思います。もちろん麻酔だけでなく、飛行機そのものに関する疑問にも明快なお答えをいただけることでしょう。静脈麻酔には全く興味は無いけれど飛行機のお好きな先生方、是非是非ご参加ください。このように非常に充実した内容です。いきがかり上、私も朝から晩まで参加しますので、研修医やレジデント、多くの素敵な皆さんとの出逢いを楽しみにしています♡♡